

8月

# 新着図書

## 魔女の後悔

著者名： 大沢 在昌  
出版社： 文藝春秋

通称「地獄島」に娼婦として売られた過去を持ち、闇のコンサルタントとして裏社会を生きる女・水原。ある日、13歳の少女・由乃を京都まで連れてきてほしいと依頼される。ボディガードとして同行するが、途中で謎の人物に襲われかけ、由乃の亡父が韓国政財界を震撼させた巨額詐欺事件の主犯だったことを知る。さらに由乃だけでなく、執拗に水原を狙うグループが現れ、由乃との思わぬつながりを告げられ――。

大好評《魔女》シリーズ第4弾

## ドクター・デスの再臨

著者名： 中山 七里  
出版社： KADOKAWA

『帰ったら母親が死んでいました。ネットを通して、誰かに安楽死を依頼してみたいなんです』少女からの通報で警察に衝撃が走った。SNSを通じて安楽死を希望する者に処置を施すのは、警視庁捜査一課の犬養隼人が女性刑事・高千穂とともに過去に追い詰めた連続殺人犯〈ドクター・デス〉の手口だったからである。拘置所に共犯がいたのか、それとも〈ドクター・デス〉に同調した模倣犯が現れたのか。犬養最大の敵が再び現れる。どんでん返しの帝王が放つ、息もつかせぬ警察医療ミステリ！

## ツミデミック

 **直木賞受賞作品**

著者名： 一穂ミチ  
出版社： 光文社

大学を中退し、夜の街で客引きのバイトをしている優斗。ある日、バイト中に話しかけてきた大阪弁の女は、中学時代に死んだはずの同級生の名を名乗ったが――「違う羽の鳥」 失業中で家に籠もりがちな恭一。ある日小一の息子・隼が遊びから帰ってくると、聖徳太子の描かれた旧一万円札を持っていた。近隣の軒家に住む老人にもらったというそれをたばこ代に使ってしまった恭一だが――鮮烈なる”犯罪”小説全6話

## わたしの知る花

著者名： 町田そのこ  
出版社： 中央公論新社

「あんたは、俺から花をもらってくれるのか」  
虫も殺せぬ優男、結婚詐欺師……？  
77歳で孤独死した老人の、誰も知らない波瀾に満ちた意外な人生とは？

『52ヘルツのクジラたち』町田そのこの新作は、一人の男と美しい花を巡る物語。

## サンショウウオの四十九日

著者名： 朝比奈 秋  
出版社： 新潮社

 **芥川賞受賞作品**

同じ身体を生きる姉妹、その驚きに満ちた普通の人生を描く、芥川賞候補作。周りからは一人に見える。でも私のすぐ隣にいるのは別のわたし。不思議なことはなにもない。けれど姉妹は考える、隣のあなたは誰なのか？ そして今これを考えているのは誰なのか――三島賞受賞作『植物少女』の衝撃再び。最も注目される作家が医師としての経験と驚異の想像力で人生の普遍を描く、世界が初めて出会う物語。

## バリ山行

 **芥川賞受賞作品**

著者名： 松永K三蔵  
出版社： 講談社

古くなった建外裝修繕を専門とする新田テック建築に、内装リフォーム会社から転職して2年。会社の付き合いを極力避けてきた波多は同僚に誘われるまま六甲山登山に参加する。その後、社内登山グループは正式な登山部となり、波多も親睦を図る目的の気楽な活動をするようになっていたが、職人気質で職場で変人扱いされ孤立しているベテラン社員妻鹿があえて登山路を外れる難易度の高い登山「バリ山行」をしていることを知ると……。

## 首木の民

著者名： 誉田哲也  
出版社： 双葉社

大学の客員教授、久和が窃盗と公務執行妨害の容疑で逮捕された。運転する車の中から、血の付いた他人の財布が発見されたのだ。久和は内閣府が設置する経済財政諮問会議に参加したこともある経済政策通だが、警視庁志村署の佐久間に対し「公務員を信用していない」と言い、取調べは進まなかった。一方、財布の持ち主を捜していた志村署の中田は、フリーライターの菊池に行き着く。菊池は交通事故を探っていたが、その事故には財務省のある人物が絡んでいた。

## テミスの不確かな法廷

著者名： 直島 翔  
出版社： KADOKAWA

任官七年目の裁判官、安堂清春（あんどうきよはる）は、東京からY地裁に赴任して半年。幼い頃、発達障害と診断され、主治医のアドバイスを受け、自身の特性と向き合ってきた。市長候補が襲われた詐欺未遂と傷害事件、ほほ笑みながら夫殺害を告白する女性教師、「娘は誰かに殺された」と主張する父親……。さまざまな事件と人との出会いを通じて、安堂は裁判官として、そしてひとりの人間として成長していく。